東京信濃町の町名は碧南出身　大名永井一族に由来

東京、ＪＲ中央線信濃町駅から徒歩1分、ほぼ駅と隣接して浄土宗の一行院というお寺があります。

このお寺が発行している説明書に次のように書かれています。

「江戸幕府が開かれてまだ間もない慶長の末（１６００年代初頭）。譜代大名であった永井直勝は、現在の信濃町にあたる場所に下屋敷を拝領していました。

ちなみに信濃町という地名は、ここに屋敷を有していた永井家宗家が代々信濃守を称していたことに由来します。当初は信濃殿町や信濃原と呼ばれ、やがて信濃町になりました。直勝は僧侶になった家臣（来誉故念）のため、その屋敷の一部に一行院を建立します。これが現在の永固山一行院千日寺のはじまりとなりました」

ここに書かれている永井直勝とは、碧南大浜出身で、徳川家康の伊賀越えや小牧長久手の戦いで手柄を立て、のちに家康や2代将軍秀忠の側近となり、茨城古河で7万2千石の大名となった人物であることは、このコラムで何度も取り上げていますので、ご承知のことと思います。

嘉永切絵図（嘉永2年〈１８４９年〉から明治3年〈１８７０年〉にかけて出版された市街や近郊地域で区切られた絵図）でみると、この辺りには本家永井信濃守下屋敷を始め、永井肥前守下屋敷、永井遠江守下屋敷、永井金三郎、永井鉄弥下屋敷の五家がいずれも隣接して存在していたことが分かります。

信濃とは長野県辺りのことを言いますが、永井一族がそこを治めていたわけではなく、江戸時代に永井一族を「信濃守」と呼んでいたようです。信濃町は新宿区のなかにあり、信濃町駅は四谷駅の西隣の駅であり、周辺には慶応大学医学部、慶応大学病院、迎賓館、国立競技場などがあります。

いずれにしても、碧南市と東京都の中心部に深い関係があるとは、碧南市に住んでいても知らなかった人が多いと思います。

東京都へ行く機会がありましたら、信濃町隣接の一行院にお立ち寄りください。御堂のなかに大きな永井直勝の肖像画が飾ってあります。

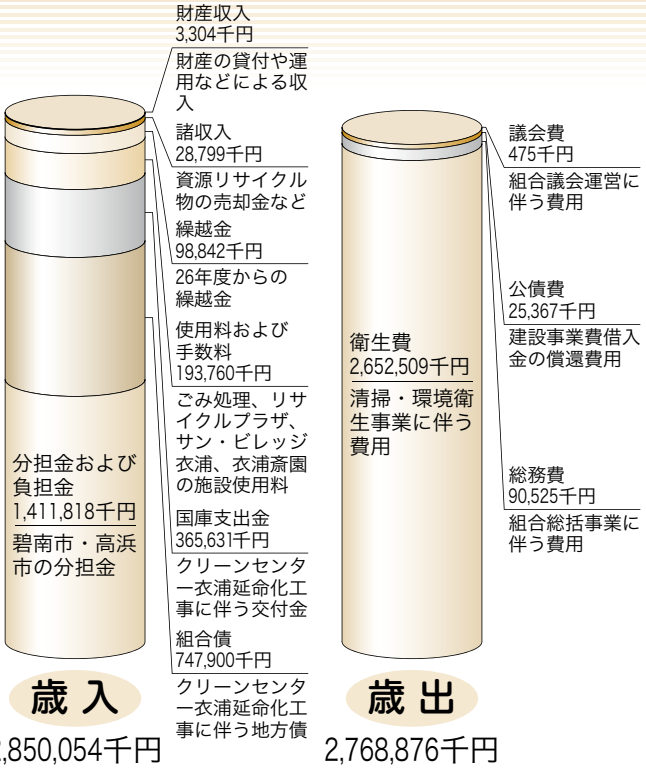
※10月1日号の敬天愛人でご紹介した長田電機工業㈱の創業者は、長田富太郎氏ではなく長田勉氏でした。訂正してお詫びいたします。

平成27年度 衣浦衛生組合一般会計歳入歳出決算報告

衣浦衛生組合は、碧南市と高浜市で構成されている一部事務組合です。

組合の事業と決算状況について、その概要をお知らせします。

組合の主な事業

・し尿の処理（衛生センター）
　各家庭から収集された生し尿、浄化槽汚泥の処理
・ごみの処理（クリーンセンター衣浦）
　各家庭から収集された、可燃ごみ・粗大ごみの処理および事業系一般廃棄物の処理
・ごみの再生処理（リサイクルプラザ）
　再利用できると判断された粗大ごみや家庭にある不用品でまだ使える物の展示・販売
・温水プールと浴場の運営（サン・ビレッジ衣浦）
　クリーンセンターのごみ焼却余熱を利用した温水プール、風呂施設の運営
・火葬場の運営（衣浦斎園）

問合せ　衣浦衛生組合　☎(41)3479